

「Joy of Learning(学習の喜び)」を目指して

開倫塾
塾長 林明夫

1. はじめに

- (1) 教育の目的とは「よく生きる」ためと考えます。
- (2) 「よく生きる」とは「多様な選択肢をもった人生を歩むこと」だと考えます。
- (2) 学ぶ、学習するに際しては、「Joy of Learning,学習の喜び」が大切と考えます。

2. 「恐怖」開倫塾の塾生、特に、受験間際の塾生の多くは、入学試験に落ちるのではないか、入学を希望する学校に合格できないのではないかというなかば「恐怖」心を持って学習しています。どうか合格スレスレまで来た人は何としても「合格安全圏」に入りたいと思い学習しています。

- (1) 「恐怖」「恐怖心」を取り除き、「合格安全圏」に入りたいために、開倫塾に入塾し、開倫塾はじめ全国の学習塾、予備校で学習をしている方も多いいえます。
- (2) 「安全」まずは合格しないのではという「恐怖」から脱却させること、次に、「合格安全圏安全」を確保させること。これが開倫塾はじめ全国の学習塾に課せられた社会的使命・社会的責任、存在意義と考えます。
- (3) 「Joy of Learning (学習の喜び)」は、この「恐怖」から脱却し、「合格安全圏」を確保してはじめて考えられます。

3. 「学習の喜び」

- (1) 「愛情、チームワーク」「学校や開倫塾などで、先生や友達と一緒に学習できて嬉しい、共に学べて幸せ」であるという「愛情・チームワーク」が「Joy of Work(学習の喜び)」の第一歩です。
- (2) 「尊厳」
 - ①学習が進めば進むほど「理解」が進みます。理解した内容を「定着」させ、試験でよい点数が取れ、社会でも使える、「応用」ができるようになるとうになると「自信」がもてます。
 - ②学校や開倫塾などでも「高い評価」が得られます。
 - ③みんなから「賞賛」されます。
 - ④よい「評判」を得ることができます。

⑤このようなことが重なると自分のことを尊ぶ」ことができるようになります。

- ・「尊厳」をもつことができます。
- ・「尊厳をもって学ぶこと」が Joy of Work(学習の喜び)」の第二歩目です。

(3) 「自己実現」さらに学習を深化させることにより

①「自己の可能性の追求」することができるようになります。

②「困難な問題への挑戦」することもできます。

③自分自身の「能力の向上」も図れるようになります。

④このように学習を進化することで「自己実現」が図れます。

(4) 学習により「自己実現」を図ることが「Joy of Learning (学習の喜び)」の第三步目、最終段階です。

(5) この三段階の「Joy of Learning (学習の喜び)」は、学校や開倫塾などでの教育、社会での教育、家庭教育など様々な教育の場で、同じ目的で、志を同じくする人々と共に学ぶときに、得られるものと考えます。

4. おわりに

(1) 開倫塾など学習塾の全体で、また開倫塾など学習塾の一つ一つの校舎で、どのようにしたら塾生を「恐怖」から脱却させ、「合格安全圏」を確保させ、「学習の喜び」の三段階を歩ませることができるか、塾生、保護者とともに一緒に考えていきましょう。

(2) マズローの欲求段階層図とデミングの Joy of Work の考え方を参考に、「学習の喜び」とは何かを考えてみました。